

論壇

「読み書きパソコン」

新型コロナウイルスで、大学ではすっかり遠隔教育が定着している。私の授業ではビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」などを使ったりリアルタイムでの議論はまだ開始していないが、学生は毎週課題の資料を読んで、与えられた課題を提出する。こうした作業は全て教育用のオンラインサイトで行われている。それ以外にも、こちらが準備した動画での講義のビデオを、学生は自分のパソコンにダウンロードして、そのビデオ講義に関連したリポートも要求される。

元重 伊藤 (国際経済学) 学習院大教授

家のWiFi環境が悪くて時間通りに課題が送れなかったというメッセージがたまに届くこともあるが、私のクラスの学生はおおむね順調にオンライン授業に対応しているようだ。送られてくるリポートを見ても、パワーポイントなどのソフトウェアをそれなりに使いこなせている。

コロナとデジタルデバイド

こんな話を別の大学の先生と話していたら、この方のごとの状況はもつと厳しいようだ。そもそもパソコンを持っていない学生がいて、スマホでも対応できるかと聞かれたそう。スマホでは、ネットに資料を探して、エクセルを使ってグラフを描くこともできない。

い。パワーポイントやワードで資料を作成することもできないだろう。オンライン教育では、パソコンかiPadのような機器が必須であり、それを利用できない人は落ちこぼれることになる。

コロナの問題が起こる前だったら、パソコンを持っていない学生でも困らないような授業運営をしていた。

バンと言われたが、現在は「読み書きパソコン」に変わっている。多くの人が指摘しているように、情報技術の進展は格差を広げることになりそう。デジタル技術の活用が広がることで、多くの人の仕事への需要が減り、所得も低下していくからだ。一方でデジタル技術を使いこなせる人はより高い所得を稼ぐことができるようになる。デジタル技術の存在が社会の分断（デバイド）と格差の拡大を引き起こすことになる。コロナ問題によってこうした分断と格差拡大のスピードは速まってくるだろう。

技術活用の支援必要

途上国の支援を議論するとき、よく出てくる比喩がある。貧しい人を助けるためには、魚をあげるべきか、それとも魚をとる釣りざおをあげるべきか、という問いがある。答えはもちろん釣りざおである。魚をあげたのでは、またもらえなことを期待する。もらえなければ飢えてしまう。これではいつまでも独り立ちできない。独り立ちできるように支援が必要であるのだ。

この比喩はデジタルデバイドにも当てはまる。デジタル技術の発展を止めることはできない。であるならパソコンができない人を助けることよりも、パソコンを使えるようになるための支援こそが必要となるはずだ。学生はもちろんのこと、社会人や高齢者にもそうした支援の手を広げるべきだろう。